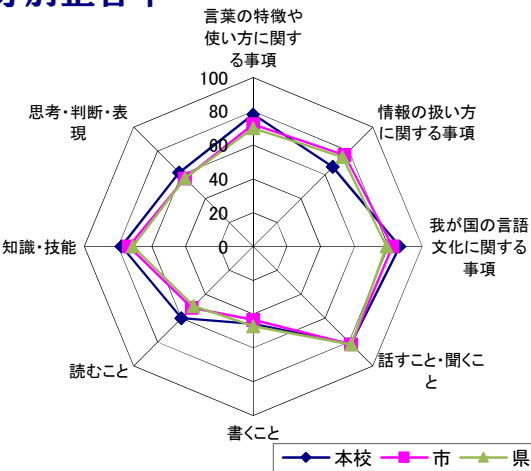


宇都宮市立東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	78.2	72.3	70.0
	情報の扱いに関する事項	66.7	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	86.7	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	81.7	81.9	82.0
	書くこと	45.8	43.5	47.2
	読むこと	60.0	51.4	49.8
観点	知識・技能	77.9	73.6	71.3
	思考・判断・表現	61.9	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は県の平均を8.2ポイント上回っている。 ○第4学年に配当されている漢字を正しく書く問題においては、いずれの設問でも県の平均正答率を15ポイント以上上回っている。 ●文の中における修飾と被修飾の関係を捉える設問において、県の平均正答率を5.6ポイント下回っている。	・当該学年までに習った漢字は概ね習得できていると言える。今後学習する漢字も含めて、ミニテストや漢字練習等を行い、さらなる定着を図っていく。 ・文法について触れる機会を増やし、主語や述語、修飾語など、言葉の役割に注目させながら文章を読んだり、書いたりするようにする。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は県の平均を8.2ポイント下回っている。 ●漢字辞典の使い方を理解し、調べ方として適するものを選ぶ設問においては、県平均を8.2ポイント下回っている。	・教室内に漢字辞典や国語辞典を置き、児童が利用できる機会を増やす。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は県の平均を7.8ポイント上回っている。 ○文を読み、適することわざを選ぶ設問において、県の平均を7.8ポイント上回っている。	・「ことわざ」や「慣用句」「四字熟語」に触れる機会を増やす。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県の平均を0.3ポイント下回っている。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える設問においては、県の平均を4.6ポイント上回っている。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問においては、県の平均を5.2ポイント下回っている。	・題意や話の流れに沿った自分の意見を言う場を積極的に設定し、自分の意見を述べたり、友達の意見の大切なことや理由を正しく聞いたりする活動を、繰り返し行う。 ・朝のスピーチなど、人前で話す機会を充実させる。
書くこと	平均正答率は県の平均を1.4ポイント下回っている。 ○指定された長さで文章を書く設問では、県の平均を4.1ポイント上回っている。 ●内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く設問では、9.3ポイント下回っている。	・「書くこと」の学習においては、考えたことを書いて記録する活動を取り入れ、条件を設定した短作文等の「書く活動」を積極的に取り入れる。
読むこと	平均正答率は県の平均を10.2ポイント上回っている。 ○物語文、説明文どちらも県の平均正答率を上回っている。特に、物語文において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有する設問においては県の平均を14.9ポイント上回っている。	・読書活動の充実と推進を図る ・説明文を読むことの学習においては、児童が叙述に沿って考えることを意識して教材文を読むよう、継続して指導する。また、段落相互の関係を捉えながら話の全体を俯瞰して読む力も身に付けられるように指導していく。